

研究授業通信

古枝小学校

研究主任 松林 諒

令和四年度 7月11日

1年生「マットを使った運動遊び」

第4回目の授業研究は、1年生のマットを使った運動遊びを行いました。

事後検討会を終えての、先生方の感想です。

研究の内容①「学習カード」

- 教師側から見て今回の学習カードが使いやすいなら、それはそれで画期的だと思うけど、自分だったら1年生一人一人に個人カードを持たせ、項目にシールを貼る（色分けもあり）と、自分が評価しやすいかなと思いました。（乗田）
- 1枚にまとめられている形式。発達段階にあっている。教師視点で見ると、子どものふりかえりを追えるので、個別に指導しようとする子を見つけやすい。また、全体の傾向も分かるため、全体で統一した指導を行う内容も考えやすい。（柿原）
- 発達段階に合っていて分かりやすかった。（馬場）
- 皆で共有できてよかった。（藤井）
- 一枚にまとめられていてすごくわかりやすかった。（川崎由美）
- 1年生としての形はあの形がいいと思います。普段の授業でも簡略化して応用できると思います。カードの低・中・高としてのスタンダードが見えてきたかなと思います。（吉本）
- ふり返りの項目がしぼってあり、1年生の児童にとっても分かりやすかった。掲示式の学習カードにすることで、1年生にとって、見やすく分かりやすい形になっていた。教師にとっても評価しやすい学習カードになっていた。（加藤）
- 掲示で全体が見られるのは良いと思いました。毎時間の学習の足跡が見られるのも、子ども達にとっても教師にとっても良いと思いました。（川崎由佳）
- 1年生という発達段階に合わせて、個人ではなく全体での学習カードの使用は、活動時間の確保につながった。困ったマークゾーンを作ることで、子ども達の困り感が全体で共有したり、教師が把握したりできてよかった。（山口）
- 子ども達のふり返りを次時の学習にうまくつなげていけたら、活動がもっと発展していくなと感じました。（山口）
- 低学年における新しい形式として、活用していけそうだなと思った。学習の足跡としてのカード活用も重要であるが、変容や推移を観察していくうえで、今回の形式は非常に有効であると思った。いい提案をしていただいたと思う。（片瀨）
- 個別最適な学びの観点から考えると、子どもたち一人一人に持たせる学習カードの意義は大きいので、発達段階や児童の実態、単元の意図に応じて使い分けをしていけばよいのでは・・・。（片瀨）

研究の内容②「めあて・ふり返り」

- 「うごきをレベルアップさせる」ことにしよれば、「○○（動物・のりもの）になって、とぶ・回る・はうをいろいろなランドで楽しもう」のめあてにひみつへいきで「しぼり」をつくることでレベルアップに向かうと思う。（乗田）
- めあてが学級全体で統一されている。シンプルで分かりやすかった。（柿原）

- ねらいである「たくさんの動き（マット運動につながる）を経験させる」を達成させるためには、めあての文言を検討する必要がある。例えば「ランドをレベルアップさせて、一つのランドでできる動きを増やそう」。また、「一つのランドでいくつの動きを取り入れられるかな？」といった子どもへの投げかけも有効。（柿原）
- 子どもたちに分かる言葉でめあてを伝え、それに対して、しっかりと視点を持ったふり返りができていたと思う。（馬場）
- レベルアップの意味が子どもたちに教師の意図として伝えられたらよかったというBグループに合点しました。（藤井）
- ネームカードを項目の欄に各自で貼ることで、全員の意志表示ができ、ちらばり具合も一目瞭然で分かりやすい。（下村）
- めあての提示の仕方も子どもたちがわくわくするようなしかけがよかった。（川崎由美）
- 今回の授業でめあての重要性を感じられたと思います。○○になりきろう、動物になって、低い姿勢で・・・など、体育はめあて次第で体の使い方、動きが左右されると感じました。めあてから子どもたちがどんな事をイメージしてどんな動きをしようとするか予想を立てられるといいと思いました。（吉本）
- めあてへの引き付け方が良かった。名前カードを貼るやり方にすることで、児童もふり返りがしやすかったと思う。短時間で行うことで、十分に活動時間を確保することができていた。（加藤）
- 興味を引くめあての出し方は低学年はとても喜ぶと思いました。活動の時間がたくさんあったのもよかったです。（川崎）
- ふり返りの「楽しかった」「おもしろかった」以外の感想を引き出すには、どう声かけをしたらふり返りの幅が広がるのかなと思いました。（1年生では難しいかもしれませんが・・・）（川崎由佳）
- めあての提示の仕方は、子どもが興味が湧く形でとてもよかった。（山口）
- 教師と子どものめあての認識の合致！！（今回で言えばレベルアップ）（山口）
- 本時のレベルアップの観点については、事後研でも話題になっていた。教師が意図するねらいやめあてを児童にどのように下ろすかは、指導者の発問や助言、場の設定や教具・教材の工夫などの手立てにも大きく関わってくる。どのような言葉で投げかけ、どのように助言していくか。体育の授業だけではなくどの教科においても重要。（片淵）

研究の内容③「教材・教具の工夫」

- 場づくりは最高！教具の準備もわくわくする授業づくりでした。子どもがいろいろと選べる場づくりは楽しいですね。（乗田）
- 工夫された教具がたくさん。子どもに十分なワクワク感を持たせられていた。（柿原）
- が故に、たくさんの道具を使いたい！！という気持ちにウェイトがあった。より効果的に（ねらいを達成するために）使うには、1時間で提示する道具の数をしぼる。「この道具では、この動きができるね」と確認することで有効な使い方を捉えさせる。次時で新たな道具を増やしていく。（柿原）
- 知的好奇心をくすぐる教材・教具の見せ方だったと思う。（馬場）
- 秘密兵器を見せたときの子どもたちの目の輝きが印象的だった。ただ、道具に目が行き、これまでに積み重ねてきた動きが少なかったので掲示物にあった〈○○にへんしん〉に触れてもよかったかなと。でもあえて触れずに子どもたちの自由な発想を引き出そうとする意図もあった？先生が紹介する中で、動きが広がっていったのは素晴ら

しかったです。(馬場)

○秘密兵器で子どもたちの意欲はとてもアップしたことはよかった。(藤井)

□前時までのたくさんの動きが更にアップできる兵器のうまい使い方を考えていきたい。(藤井)

○児童の興味をそそるような教具で、主体的に活動する手立ての一つとして効果的だった。(下村)

□ただ、加藤先生がおっしゃったように「〇〇の道具を使うことで動きがさらにレベルアップする」というような使い方を下学年グループの話し合いや教材作りの段階で、イメージを膨らませておく必要があった。(下村)

□教材が多すぎて楽しそうではあったが、マット運動の動きが少なかった。マットを広くしたり、動物に変身したり等の工夫をすれば動きが増えていくのではないか。道具を使っただけの動きを教師が考えておいた方がいいかと思う。(川崎由美)

□教材の量が子どもたちの思考に繋がると感じたので、量に着目するのも大切だと感じました。量・出し方(子どもたちの必要感・切実感)たくさん考えさせてもらいました。増やすだけでなく減らす考えも大切ですね。(吉本)

○教材・教具への引き付け方が素晴らしかった。最初はジャンプばかりしていた児童が、授業の終わりには教示・教具を使って色々な動きをするようになっていた。一時間のうちに児童の成長が見ることができた。それは教師の働きかけで協働的な学び合いができていたからだと感じた。(加藤)

□ランド作りで楽しそうにしている姿がとても印象的でした。ただ、自分が担任をしたときにあれだけの量の教具は準備できないなと思いました。(お手玉やフラフープ、跳び箱ぐらいいかな・・・)簡単にできるのがあればいいなと思います。(川崎由佳)

○子どもが使いたくなる教材・教具ばかりでとても良い仕組みだった。提示の仕方もととても良かった。見たときの子どもの目の輝き◎(山口)

□マット運動に適した(子どもが使いやすい)教材の選択も重要だと感じました。今回たくさん教材を考えていただき次の参考になりました。(山口)

□「楽しいマット遊び」を目指して、学習の場(ランド)や様々な教具が準備されていたことは、素晴らしい工夫であり手立てであった。あとは、提示の仕方やタイミングである、とのアドバイスも受けた。準備のみならず、どのタイミングで、どのように児童に提示していくか・・・今後の授業研究においても、教師の授業力向上のポイントになると思う。(片淵)

その他

○とにかく学級経営が素晴らしいと思える体育の授業でした。みんな素直で目を輝かせて運動に取り組んでいたのが印象的でした。お疲れ様でした。ありがとうございました。(乗田)

○一年生における「マットを使った運動遊び」は初めて見せていただいた。とにかく勉強になりました。ありがとうございました。朝長先生、低学年部会の先生お疲れさまでした。(柿原)

○全体の見取りをしっかりとされていて、声かけや全体への紹介に先生の授業への意図をたくさん感じました。朝長先生お疲れ様でした。体育って奥が深いな～といろいろな学ばせていただきました。(馬場)

○一年生が毎時間よく、楽しく元気に活動できていることに感心します。お疲れ様でし

た。(藤井)

○一年生のやる気、楽し気な様子、朝長先生とのやり取りが実にほほえましく、すてきなクラスだなと感じました。(下村)

○友達の良い所を思いついてすぐに話している所が良かった。日頃からそういう場面があることがわかりますね。教師の声掛けによって子どもたちが考えるきっかけになっていた。(川崎由美)

○思考と技能のバランスが体育は難しいと感じたけれど、考える良いきっかけをもらいました。全研に向けて、洗練されてきていると感じます。(吉本)

□体を支持する、回転するなどのマット運動の基礎・基本や技能面の指導を運動遊びの中でどこまでするのかどこまで求めるのか、難しさを感じました。(加藤)

○楽しめる工夫がたくさん見られて、わたしもそんなふうにできたら・・・と思いながら見ていました。参考になるものがとても多く勉強になりました。ありがとうございます。(川崎由佳)

○朝長先生の声かけ、全体を集めるタイミングがとても参考になった。子ども達がとても楽しそうに活動に取り組むことができていた。マット運動遊びの動きに自然となるよう、毎時間動物の動きを使って、子ども達に意識付けが大切だと感じました。(山口)

○入学して3ヶ月の1年生が、学習者としてしっかりと成長している姿に、担任の朝長先生のこれまでの学級づくり、丁寧なご指導の積み重ねの素晴らしさを感じました。おかげで子どもたちの学ぶ姿を通して私たち職員も多くのことを学ばせていただきました。お疲れ様でした。(片淵)

○今回の1年生の研究授業は11月の2年生の授業につながる大きなヒントになったのでは・・・。研究自体もしっかりとした積み重ねのおかげで方向性の焦点化が図れていると思います。研究主任の松林先生の牽引力、先生方のチームワークのたまものだと感じしております。ありがとうございます。(片淵)

公開授業までの流れ

7月13日	○個人作業 ・これまでの成果と課題をまとめる(7月中に提出) ・指導案作成 ・授業参観の仕方、事後検討会の仕方について検討
8月末日	○成果と課題の共有 ○加藤先生、藤井先生による講義?(予定)
9月中	○下学年グループで2年生の指導案検討
10月11日	○上学年・下学年に分かれて指導案検討
11月2日	○5年生 吉本先生 「跳び箱運動」グループ研
11月9日	○全体で2年生の指導案検討 ○武道等指導充実・資質向上事業に向けた打ち合わせ
11月16日	○武道等指導充実・資質向上事業に向けた打ち合わせ
11月18日	○2年生 山口先生 「マットを使った運動遊び」 武道等指導充実・資質向上事業 公開授業